

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

ながののNPOと市民をつなぐ機関誌

特集

長野から平和を考える

- まんまるニュース まんまる Youtube・広報講座
- My ストーリー 社会福祉法人 長野いのちの電話 事務局長 松村 隆さん
- ねぼが行く! 突撃となりの NPO
NPO 法人 長野県防災・社会政策研究所
- お宝ざくざく地域を掘り起こせ! 豊野地区・若穂地区
- まんまるイベントスケジュール

まんまる



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

まんまるは SDGs を推進しています



2023

夏号

No.37

昭和20年8月13日

長野にグラマンが

やってきた日

特集

長野から 平和を考える

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

今年5月に開催されたG7サミットでは、「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が発表されました。世界に目を向けると、ウクライナ戦争、大量破壊兵器の使用リスクの高まりという危機に直面しています。私たちは長野から「平和」に向けて何ができるのでしょうか？ 長野で平和をテーマに活動する団体・人を取りました。

原爆の悲惨さを後世に伝える

被爆体験を聴く会 土田昇さん

被爆体験を聴く会は、2019年8月に開催した被爆体験伝承者である宮本憲久さんの語りを聞く講演会「あの日のヒロシマを忘れない」から始まっています。土田さんと宮本さんとの出会いはさらに4年前。NHK学園CSネットワークの全国研修大会in広島に土田さんが参加したときの会長が宮本さんでした。この時に被爆体験証言者の語りを聴き、「原爆の悲惨さや怖さを後世に伝え続けなければいけない！」と思いながら4年が過ぎた頃、宮本さんからの連絡で

講演会の開催につながりました。被爆体験を聴く会は、長野市ボランティア連絡協議会等の協力のもと実行委員会として活動し、毎年夏に連合長野との共催でDVD上映を続けてきました。今年は、「原子爆弾がもたらす真実〜祖父・松尾あつゆきの日記から〜」と題した平田周さんの講義と平和について考えるセッションを企画しています。平田さんとの出会いも運命的なものでした。連合長野から寄贈された長野市在住の竹村昌男さん著書「花



びらのような命」を読み、長崎で被爆体験をした俳人の松尾さんを知ります。そして会の取材に來た記者から松尾さんの孫である平田さんを紹介されます。会を定期的に開催していたことで、出会いにつながり、会の継続につながっています。宮本さんが昨年亡くなり、実際に被爆した伝承者の生の声を聴ける機会が減っていることに危機感を感じている土田さん。「長野市は被爆地ではないから戦争を遠く感じているかもしれないが、ウクライナの話は遠い国の話ではない。核兵器が使われれば、物価が高くなるだけでなく、当たり前前の平和が消えてしまう。この危機に長野市民は気がつかなければいけない。そして若い人に伝えていかなければいけない」と話しました。

語り継いでいくために

長野空襲を語り継ぐ会 若林準也さん

「長野空襲を語り継ぐ会」として活動する若林準也さん。活動のきっかけは、中学時代に参加した同会の戦後70周年の講演イベント。自分以外に若い世代が参加者にいないことに気づき、「語り継ぐ人がいないのでは」と危機感を覚えました。周囲には長野に空襲があったことすら知らない人も多く、そのまま風化させてはいけないという思いから、時には友人も誘い同会イベントに参加し続けてきたそうです。高校時代には、韓国とアメリカで現地の人から話を聞くという体験を通じ、さまざまな切り口で戦争を知ることになりました。

そして、2019年。19歳の時に「語り部の姿を後世に引き継ぐために映像として残そう」と、若い世代がアクセスしやすい公式サイトを作成しました。当時の証言や資料を文字にし、写真などを集めて掲載する作業には、若林さんを含め5人の仲間が協力しました。「団体の活動に長く参

加してきた中で、当時の話を聞くと一時は思いが強くなるがなかなか続かないという場面を多く見てきた」と若林さん。「戦争はどこか他人事になってしまふ。もしも自分が同じ状況だったらと考えることで主体性が生まれる」と話しました。若林さん自身、空襲の場所がどこなのか、当時の写真と今を見比べたことで関心が強くなり、自分から深く調べ始めたといいます。今年の8月13日に長野空襲を語り継ぐ会の語りイベントを開催します。活動を始めて9年目の今、若林さんには今までは違う思い





ふくろうおばさんの創作紙芝居

赤澤節子さん

があります。「語り継ぐ」というのは永続的なもの。だからこそ会を引き継いで存続させていかねばと強く思う。自分に何ができるのか考え続け、サイトの内容も

含めてその形を模索してきたい」と意気込みました。

「長野空襲を語り継ぐ会」
公式サイト▼



母親の介護がきつかけで創作紙芝居を作ることに。なった赤澤節子さん。認知症になり昔の話を繰り返し母親の話を聞く毎日。辛くなって相談した保健師から「自分の時間を作るように」と勧められ、参加したのが創作紙芝居の講座でした。母親が繰り返し話す内容は戦争のこと。幼馴染と話す様子を見て、戦時中のことを紙芝居にすることを思

いつきました。介護は大変でしたが、話を絵に描いて確認してもらって、不思議と母親も症状が落ち着いてきたそうです。
「昭和20年8月13日長野にグラマンがやってきた日」を最初に作った時は10枚の紙芝居でした。紙芝居を作ったのなら披露してほしいと頼まれ、デイサービスや敬老会で披露すると、「それはうちの話だ」「あの時はこんなこともあった」と参加者同士で話が盛り上がりしました。野次が飛ぶこともありましたが、昔のことを話すことは大事だと思いい、続けてきたそうです。紙芝居を披露した後に聞く参加者の話が楽しくて、話を聞いては描き加え、今では25枚の大作になりました。

命の大切さを沖縄から

野池道子さん

沖縄県那覇市で「ブックカフェ&ホールゆかるひ」を経営する野池道子さん。生まれは沖縄ですが、長野のリンゴ農家に嫁ぎ、語りや読み聞かせの「お話ボランティア」を続けてきました。

赤澤さんは1歳の時に東京の戦火から逃れる際に喉を火傷し、声が出にくくなるときがあります。のどかな農村地帯だった長野にも空襲があり、食べるものの着るものがなく苦労したことや疎開先で冷たくされた悲しさを思いおこします。そして、「戦争は愚かなこと。戦争がなければ農村は豊かなまま暮らせただろう。一番悲しいのは、戦時で生き残るために必死になり、他人のことまで考えられなくなること。今戦争が始まったらと思うだけで心が苦しくなる」と語りました。

紙芝居動画はこちらから▼



そんな野池さんが故郷沖縄に帰るきっかけとなったのが、三上智恵監督の映画「標的の村」です。ヘリコプター離着陸帯（ヘリパッド）建設や新型輸送機オスプレイ配備に反対する沖縄の住民たちの姿を記録したこの映画を鑑賞し、「何かに殴られたような衝撃を覚えた」と言います。そして、「沖縄のために活動をしたい」と2014年に沖縄へ。現在、「ゆかるひ」はさまざまな人が集い、年齢を超えて対話が生まれる場所となっています。



小布施公演で参加者と一緒に

第二次世界大戦では長野からも多くの軍人が沖縄に向かい、命を落としました。沖縄戦で犠牲になった約24万人の名が、軍人、民間人、国籍の区別なく刻まれている「平和の礎」には、1300人余りの長野県民の名が刻まれています。沖縄慰霊の日である6月23日までの数日間、礎に刻まれた名前をすべて読み上げるイベントがあります。初の開催となった2022年は、1500人以上が会場とオンラインで、戦争

で失われた命を思いながら、刻まれた一人ひとりの名前を読み上げました。「名前を読み上げることが、悲惨な戦争の実態と向き合い、平和の尊さを知る機会

になる」と話す野池さん。「来年もこのイベントが続くなら、犠牲になった長野の人々の名を、ぜひ長野の人に読み上げてほしい」と呼びかけました。

小さな行動の連鎖が平和へ

長野市立長野高校 堀内和央さん

堀内和央さんは、学校の探求学習で「ロシアによるウクライナ侵攻を受け、自分たちに何ができるのか」をテーマに掲げました。小さいときから戦争に関する映画や漫画を通じて、また祖父母から体験を聞いて、関心があったこと、他に取

日本に避難してきたウクライナの人たちの母国への思いを聞き、「ウクライナ国内で困っている人への支援」となる募金活動に踏み切りました。募金箱やポスターの作成から始まり、学校や駅前で募金活動を行いました。戦争に関心を持って



も募金するようになったという堀内さん。「目の前の頑張っている人、訴える人、困っている人を応援したい気持ちや行動の連鎖が平和につながるのではないか」と感じたそうです。学習の中でも「実際に行動すること」を重視していた堀内さんですが、

SDGs 折り鶴プロジェクト ～あなたのまちから広島へ届けよう～

G7 広島サミットにあわせ、平和を願う市民活動として全国的に企画された「折り鶴プロジェクト」。その地域拠点として、市民協働サポートセンターが折り鶴の取りまとめをしました！

センターに集まった鶴は3729羽!! 自宅で折った人、企業や学校などみんなで折ってくれた団体、センターに集まった折り鶴を数えてくれたボランティアなど多くの人が関わりました。平和の願いが、世界へ届きますように。

「次に自分が行動するなら何を？」と聞くと、「現地に行って直接支援をしたい。自分が動く人になれたら」と答えました。今後はもっと社会情勢を学びたいそうです。



折り鶴を数えるボランティアのみなさん

平和な世界は当たり前。前にそこにあるものではなく、私たち一人ひとりの努力と行動が必要なのかもしれません。市民協働サポートセンターまんなるでは「わたしたちの考える平和」と題した交流会を開催します。世代や立場を超えて対話し、「平和」についてのそれぞれの視点を共有してみませんか？

event information

★SDGs まんなる

「わたしたちの考える平和」

日時… 8月8日（火） 13時30分～16時
場所… もんぜんぱら座304会議室
料金… 無料

★その他平和に関するイベント

「第38回長野空襲を語る集い」

日時… 8月13日（日） 9時30分～11時30分
場所… 市ふれあい福祉センター5階ホール
主催… 長野空襲を語り継ぐ会

「被爆体験を聴く会」

日時… 8月27日（日） 13時30分～15時30分
場所… 市ふれあい福祉センター5階ホール
主催… 被爆体験を聴く会

※詳細は各団体またはまんなる HP で



まんまる新企画

「まんまる YouTube ～あなたの活動の源を教えて～」



2023年度新企画「まんまるYouTube」あなたの活動の源を教えてくださいが始まりました。より多くの人に地域で活躍する人や団体を知ってもらいたいという目的で、市民活動をしている人をゲストに招き、活動内容をはじめ活動のパワーの源を探る企画です。

志水さんは福岡県出身で、「友達を増やしたい」と思ったのが活動に参加したきっかけです。「無理しないことが大事」と言い、今では活動が生活の一部になっているそうです。「活動を通じて出会う人たちは本当に素敵な人ばかり。多くの人の縁ができたことがとてもよかった」と話します。そんな志水さんに今後やってみたいことを聞くと、「哲学の研究をしたい。今までも哲学対話を開催してきたが、今後も自分自身の考え、問いを深める場を創ってきたい」とのこと。



まんまる YouTube チャンネル
チャンネル名
「市民協働サポートセンター」
で視聴できます

5月28日、団体の広報に欠かせない「広告」づくりの講座を開催し、市民活動や地域活動に取り組み8団体が参加しました。今やさまざまなソフトがあります。今回は文章作成ソフト「Word」を使って、実際



「Wordで広告をつくる」

に新聞広告を作りました。

前半は、講師の寺澤順子さん（ソーシャルデザインセンター、以下SDC）から「NPOにとつての広報」についての講義です。NPOの広報で大切なのは「信じて共感してもらうこと」と寺澤さん。また、地域への貢献をアピールできる点などからも、NPOと地域紙の親和性は高いという話がありました。後半はいよいよWordで新聞広告作り！講師の吉田百助さんから作成のポイントを聞きながら、それぞれ用意した写真やロゴを使って、団体紹介やイベント告知などの新聞広告作りに取り組みました。

子どもたちが笑顔になるように

子ども・若者サポート

チャイルドライン受け手ボランティア

養成講座 参加者募集！

私たちがいっしょに活動しませんか
養成講座は5日間(9月9日・30日、10月21日、11月25日、
12月9日。いずれも土曜日)で計10回開催します

チャイルドラインは
18歳までの子どもがかけられる無料
の電話「こころの居場所」

電話を通して子どもの気持ちに寄り添い、
気持ちを受けとめる活動をしています。
研修を受けたボランティア
が、全国の子どもたちの声を
聴いています。

詳しくは、チャイルドライン
なごのホームページを
ご覧ください⇒

【お問い合わせ先】
NPO 法人なごのこどもの城いきいきプロジェクト
チャイルドラインなごの事務局
✉ cln0874@yahoo.co.jp

Social Design Center
Limited Liability Partnership ソーシャルデザインセンター

完成した広告の一例

最後は、参加者同士で作品の良い点を伝え合い、「シンプルでわかりやすい」「色づかいが素敵」などの意見が出ました。SDCの審査で選ばれた作品が7月4日の長野市民新聞に掲載されます。

#25

My
ストーリー

社会福祉法人 長野いのちの電話

事務局長 松村 隆さん

松村さんを東京から長野へ導いたのは、学生時代に参加したキリスト教青年会（以下、YMCA）での活動でした。学生ボランティアで信濃町をはじめ、県内各地を訪れたことが縁になりました。

卒業後はYMCAに就職。長野市に移り住み、キャンプディレクターとして青少年の育成に力を注いできました。長野での生活が19年を過ぎた頃、故郷の秋田から東京に戻ろうかと思案していると、長野で生まれ育った3人の子どものちは「ここがいい」。その一言でこのまま長野で暮らすことを決めました。YMCAを退職後、1994年に当時の内坂徹新生病院院長（小布施町）からの誘いを受け、「長野いのちの電話」事務局長に就任しました。

「日本の自殺率は先進国（G7）の中でトップ。子どもの頃から男らしく、女

らしく、子どもらしくといった世間の常識に縛られてきたことが背景にある。自分らしさを追求していくことが人生。自分で自分の人生を絶つことは何よりももったいない」と、相談者のすべてを受け止め、寄り添う「いのちの電話」の存在意義を示します。また、「電話相談員は、非常に大きな役割を背負っている。使命感を持って臨めるかです」と、相談員に必要な心構えを話しました。

松村さんのすべての活動に通奏低音のように響いているのは、「人間の命は尊厳と敬意で扱われなければならない」という信念。だからこそ「人には自分らしい幸せな人生を全うする権利がある」と断言するのです。

取材・執筆 市民ライター 佐藤ティ子

団体情報

社会福祉法人 長野いのちの電話
長野市大字栗田857-1
TEL: 026-225-1000

プロフィール

1956年、秋田市生まれ。長野県NPOセンター理事。長野市吉田地区在住・妻と二人暮らし。好きな食べ物は旬のもの。長野県社会福祉施設BCP※策定アドバイザー。〈※BCP(Business Continuity Plan)＝事業継続計画。自然災害、テロなどの緊急時、重要な業務が継続できる方策を用意し、生き延びられるようにしておくための計画〉



ねぽが行く! ☆

突撃
となりの

NPO

NPO法人長野県防災・社会政策研究所



できたばかりの法人の
チランを手にする
理事長・古村さん

同法人は、2023年3月に認証設立されました。
理事長の古村幹夫さんは、消防団長を務めた経験から、町村などの小さな自治体では、職員が防災以外の事業も兼務、多忙で日常業務以外のことに手が回らないと感じてきました。そこで、そのような自治体での地域防災計画策定の支援や社会福祉法人などのBCP策定サポートの準備をしています。また、一般向けには、防災講演会や子どものための防災の取り組みをしたいと考えています。

事務局長の山口春彦さんは「今は県内の防災関係者と関係作りをしながら、法人として地盤固めをしているところ」と話します。災害はいつやってくるかわかりません。同法人の活動に期待しましょう!!

NPO法人長野県防災・社会政策研究所
長野市西長野4-1-703
Email: nagano.dsi@gmail.com

「豊野のまちづくりをみんなの手で」

豊野地区



熱を帯びるグループでの話し合い

2022年に発足した豊野地区の「豊野まちづくり委員会」。昨年は地区内に新しく建設される「防災交流センター」について話し合ってきました。そして、この春、新たな公募委員も含めて豊野の未来を考え、

まちづくりを進める活動を開始しました。

新委員を迎え初めての開催となった5月17日は、一人ひとりが「豊野のここが好き」「豊野のここを変えたい」「まちづくりへの想い」を存分に語りました。みなさんの豊野への想いや自分たちの暮らすまちの将来を考える姿が印象的でした。大学生の藤澤綾香さんは、進学先から会議のたびに帰省し参加。「子どものころから地域の人と関わること豊野をとっても好きになった」と語りました。

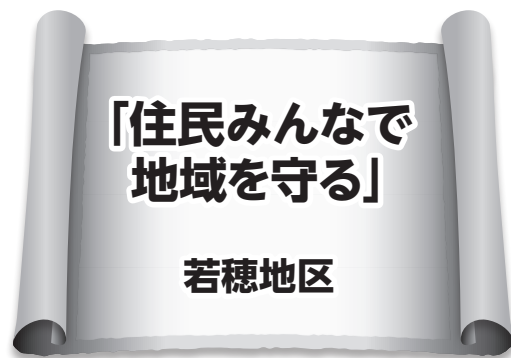
2回目の6月1日は、委員から出た「豊野のここを変えたい」をもとにグループに分かれて議論を深めました。それぞれの想いを語り合い、理解し合うことが原動力となり、一つの形になっていく大切なプロセスです。

今年委員長となった平澤香織さんは、「委員一人ひとりの意見が活かされるよう、丁寧に、でもスピード感をもって取り組んでいきたい」と考えています。同委員会につながった人の輪がさらに広がり住民の手によるまちづくりになることを期待します。



「住民みんなで地域を守る」

若穂地区



長野駅から車で約30分。長野市街地を見渡すことができ、リンゴの産地としても名高い若穂綿内にある山新田地区。ここで活動する「山新田活性化プロジェクト」のメンバーを含む約30人の住民が、4月29日地区内にある見晴らし公園に集まりました。この日の目的は5月に見ごろを迎える藤棚の手入れと公園の整備です。自前の刈払機で草刈りをしたり、斧で枝を切ったりして2時間。公園はキレイになり、腰を下ろしてゆっくり藤を觀賞できる状態になりました。



力を合わせて公園の整備に励みました

自分たちでできるところはやらないとね」と話しました。同団体は、約20年前から地域活性化を目指し、地域内の名所を紹介する看板の設置や案内、草刈りを含めた環境整備などを住民主体で実施しています。過去には、地域内の農地に残された産業廃棄物の撤去のため、住民が軽トラックを持ち寄り片付けたこともあるそうです。見晴らし公園では藤棚だけでなく、地区内の残土を集めた地盤整備や桜の植樹も行ってきました。前代表の戸井清水きよみさんは、「活動の楽しさを伝え無理せず続けていくことで、若い世代にも引き継いでいきたい」と話します。

お詫び：前号（No36）の当コーナーで紹介した西之門子どもレストランは、第一地区の誤りでした。お詫び申し上げます。



市民協働サポートセンター スケジュール

2023年 7月▶9月



タイトル	日 時	会場 / 費用	内 容
NPO ステップアップ講座 「NPO の資源を獲得する！」 連続講座	① 7月23日(日) 13:30 ~ 16:30 ② 10月1日(日) 13:30 ~ 16:30	もんぜんぶら座 3階 304 会議室 参加費: 2 回連続受講 3,000 円 単発受講 2,000 円 (1 団体 2 人まで。 追加 1,000 円 / 人) 定員: 20 団体	「活動を担う人材がいない」「活動資金がない」といった悩みはありませんか? NPO の資源である「人」と「お金」に焦点を当て、自団体が目指す姿に向けた道を考える連続講座です。 ■第一回(7/23): 「団体の組織運営を学ぼう」 多様なメンバーやボランティアなどとの継続的な関係性を作るために何をすべきか考えます。 ■第二回(10/1): 「活動資金の調達を学ぼう」 自団体の財源を整理し、対話の中で資金への不安を出し合います。今後の資金調達の方針を一緒に見つけましょう。 講師: 田辺大(たなべゆたか)さん(社会起業家・NPO おじさん)
SDGs まんまる 「わたしたちの考える平和」	8月8日(火) 13:30 ~ 16:00	もんぜんぶら座 3階 304 会議室 参加費: 無料 / 定員: 30 人 対象: 平和活動を行う団体・ 関心のある団体・行政・ 教育関係者・学生・個人	原爆の日や終戦記念日がある 8 月に、市内で平和活動を行う団体や体験者の話を聞き、長野から何ができるのかを考えます。あらためて平和に意識を向けると同時に、世代間で交流することで平和に対する持続的な活動の足がかりとします。
まるボランティアサロン ①ボランティアさん集まれ! ②機関誌発送サロン	①毎月第 4 火曜日 10:30 ~ 13:00 ②9月30日(土) 10:30 ~ 13:00	市民協働サポートセンター 参加費: 無料 対象: 誰でも	まんまる開催のボランティアサロン。楽しく無理なくボランティアをしませんか? 10 代から 80 代まで活躍中! ①封筒や紙バックづくりなど、その日によって作業は変わります。 ②3 ヶ月に 1 回発行する機関誌発送作業です。

開催方法などが変更になる可能性があります。ホームページやフェイスブックでも随時情報発信しています。あわせてご確認ください。

まんまるの本棚から ピックアップ

2023 長野の子ども白書

長野の子ども白書編集委員会 ¥2,500 (税込)



子どもの権利条約の実効ある実現を目指し、長野県の子どもの実状や声を集め、発信している一冊。「子どもの権利」という言葉の認知が広がっている今こそ読んでほしい」と事務局の小林啓子さん。

新 スタッフ紹介 花石 多希子



情報発信(広報)や事務、まんまるサロンなどを担当します。子どもの発達が気になる親の会の運営やしまりーという名前で自閉症の啓発活動をしています。推しは名探偵コナンの赤井さん! コナン検定 1 級持ってます。

ご注文
お問い合わせ

FAX.026-244-7207 または keikoba1@beige.ocn.ne.jp

ホームページからも申し込みできます。
<https://naganonokodomo.jimdofree.com>



まんまる はココに!

フタキ薬局

女三代続く頼りになる地域の薬局。処方箋調剤から、漢方、健康や美容に関するカウンセリングまで手広く手掛けています。

三代目店主の田中亜希子さんは、薬剤師としてドラッグストアや病院などで勤務する中で感じた疑問から、漢方や中医学を学びました。一人ひとりの話を聴きながら、原因を究明し、アドバイスや処方を行っています。

長野市上松4-5-11 TEL 026-241-3316 メール futaki3316@gmail.com

営業時間 平日9:00~18:30・土曜 9:00~16:00(日・祝日休み)



気持ちも明るくなる店内にて

発行 / 市民協働サポートセンター まんまる (長野市)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F

e-mail: npo@nagano-shimin.net

ホームページ: <https://nagano-shimin.net/>



編集後記

猫の毛が抜け変わる時期。ばあちゃんちの猫も大量に抜け始めたので行く度にブラッシング。うちのこはブラッシング好きだけど、それにしても抜けまくる。毎回両手いっぱいになる量の抜け毛と秋頃までは戦わなければならない。ブラッシングが終わると「じゃあ次は」とご飯の前に座るのやめて(笑) スタッフS